東京女子医科大学
51.2.16
図書館

昭和32年3月6日第3種郵便物認可　毎月1回25日発行

東京女子醫科大學雜誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

第46巻　昭和51年1月25日発行　第1号

目　次

〔綜　説〕
臨床脈波について……竹宮　敏子…1～12
〔原　著〕
羊膜索を伴つた多発性奇形の解剖学的研究……葛岡八恵子…13～28
食道癌手術後における経静脈高カロリー輸液……
……安田　秀喜・遠藤　光夫・木下　祐宏・
……井手　博子・吉田　操・菊池　友充・
吉川　達也…29～34
〔臨床報告〕
男子乳腺 Paget 病の1例……飯塚　邦雄・山添　信幸・原田　昌範・
臼田多佳夫・小助川克次・大沢　幹夫…35～37
びらんを伴つた食道平滑筋腫の1例について……
……水沢　和子・遠藤　光夫・浜野　恭一・
木下　祐宏・井手　博子…38～41
経中心静脈栄養法併用による成人の非悪性食道気管支瘻の
1治験例……曽我　基行・嶋田　誠・中谷　雄三・里村　立志・
倉光　秀麿・織畑　秀夫・阿部　澄子・藤川　晃成・
中島　知子・滝沢　敬夫…42～46
新生児胃穿孔の2例……岩崎　裕・磯部　文隆・小島幸次朗・
嶋田　誠・曽我　基行・馬淵　原吾・
鈴木　忠・倉光　秀麿・織畑　秀夫…47～51
〔症例検討会〕
乳児脳腫瘍の1例……52～57
〔学　会〕
東京女子医科大学学会　第200回例会抄録……58～62
〔雑　報〕……63～64

本誌略名
東女医大誌
J Tokyo Wom Med Coll

東京女子医科大学学会
SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE
東京都新宿区河田町10　東京女子医科大学図書館内

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Vol. 46 **January, 1976** **No. 1**

CONTENTS

Review

Clinical application of digital plethysmogram.....Toshiko TAKEMIYA... 1~12

Originals

Anatomical studies on a case of congenital multiple anomalies with amniotic bands.....Yaeko KUZUOKA...13~28

Intravenous hyperalimentation as the postoperative case for the patient with esophageal cancer.....Hideki YASUDA, Mitsuo ENDO, Yūkō KINOSITA, Hiroko IDE. Misao YOSHIDA, Tomomitsu KIKUCHI, Tatsuya YOSHIKAWA...29~34

Case Reports

A case of Paget's disease in the male breast.....Kunio IIZUKA, Nobuyuki YAMAZOE, Masanori HARADA, Takao USUDA, Katsuji KOSUKEGAWA, Mikio OHSAWA...35~37

A case of esophageal leiomyoma with erosion.....Kazuko MIZUSAWA, Mitsuo ENDO, Kyoichi HAMANO, Sukehiro KINOSHITA, Hiroko IDE...38~41

A successful case of acquired non-malignant esophago-bronchial fistula in adult combined with total parenteral nutrition .....Motoyuki SOGA, Makoto SHIMADA, Yuzo NAKAYA, Risshi SATOMURA, Hidemaro KURAMITSU, Hideo ORIHATA, Sumiko ABE, Teruaki FUJIKAWA, Tomoko NAKAJIMA, Takao TAKIZAWA...42~46

Two cases of the gastric perforation in the newborn.....Hiroshi IWASAKI, Fumitaka ISOBE, Kojiro KOJIMA, Makoto SHIMADA, Motoyuki SOGA, Gengo MABUCHI, Tadashi SUZUKI, Hidemaro KURAMITSU, Hideo ORIHATA...47~51

Clinico-Pathological Conference (101)

A case of intracranial tumors in infant.....52~57

Proceedings

The 200th of Meeting of Society of Tokyo Women's Medical College.....58~62

Society of Tokyo Women's Medical College

Tokyo Women's Medical College Library

10 Kawadacho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan

〔雑　　報〕

○幹事会

日　時　昭和50年11月5日（水）午後3時より
場　所　東京女子医科大学中央校舎3階学会室
議　題　東女医大誌第46巻第1号編集―8編
評議員会の準備，特に明年度総会のシンポジウムの題と司会者について相談．

○評議員会

日　時　昭和50年11月25日（火）午後4時より
場　所　東京女子医科大学本部講堂
議題

1．第42回総会の件

(1)　期日　昭和51年9月25日（土）8～17時と決定

(2)　演題数　40題まで

（大体1教室1題，2題以上のときは順位をつけられたい）

(3)　演説時間　一般演題は1題6～7分（演題数による），討論2分．

(4)　演題申込締切日　昭和51年7月1日（木）．

演題と800字程度の抄録を添えること．特別講演，シンポジウムも同様抄録を出されたい．

(5)　特別講演担当者　広沢弘七郎教授
題―「心疾患の自然歴」

(6)　シンポジウムの題と司会者を決めること．題は「脳卒中の診断と治療の進歩」，司会者は織畑秀夫教授と決定した．分担者は追つて司会者と丸山教授とできめる．

2．昭和53年度綜説担当者発表

1月　丸山勝一　教授（内科）
2月　平山　峻　教授（形成外科）
4月　菅原幸子助教授（第二病院整形外科）
5月　平田幸正　教授（内科）
6月　瀬木和子　講師（第一病理）
10月　平野京子助教授（第二病院皮膚科）
11月　浜野恭一　教授（消化器外科）

3．佐藤イクヨ幹事表彰の件

11月28日の例会は第200回に当るので，これを記念して多年本学会の円滑な運営に寄与された佐藤イクヨ幹事を表彰することに決定．

4．昭和50年度中間会計報告（1月～10月）．詳細は省略するが，収入合計6,389,864円，支出合計7,534,099円，不足分1,144,235円．正会員数1,028名（50年11月1日現在），年会費を昨年度3,000円から本年度4,000円に値上げしたが，全収入でなお印刷代を賄いきれない．会費納入率は現在72％と低率，是非完納をおねがいする．

5．学内会員の会費徴収方法について，大学人事部と経理部にお願して，助手以上の本会会員である有給教職員には，6月ボーナスから会費を差引くという便法を従来行なつて来たが，出張その他で不能の場合があり，5月以降の入会者で即納しない場合もあるので，今年から，有給で未納者には11月ボーネスからも頂く事にした．問題は助手以下の若い研修生，大学院生，医療練士の方々には前述の便法を適用し得ないので，各自に請求書を出すから年度内には必ず納入されたい．

会費は1月中に納入する事が建前になつているので，学外会員は振替で請求しますからお忘れなく願います．

6．その他

○学会へ入会勧誘の件，本会は会員数が少ない．「本学教職員はすべて本学会会員であるべきではないだろうか」との発言あり．新入局員に対して各教授から勧誘して頂くよう，学長からも教授会の際にお話し下さることとなつた．

○本学会演説，本学会誌掲載論文に対して，その年の優秀者に「女子医大賞？」（仮称）を出してはどうかと提案あり．本学会発展のために前向きの案で結構であるが，選考委員その他も考えねばならず宿題とする．

○本学会直接ではないが，吉岡研究奨励金を毎年2名（本学出身在職者）に授与されているが，10年前の15万円と現在では貨幣価値が違つて来たので，増額されてはいかがという提言も出た．

○例会（第200回）

日　時　昭和50年11月28日（金）午後1時より
場　所　東京女子医科大学本部講堂
演　題　11題と佐藤イクヨ幹事表彰式

編集後記

昭和51年の新春を迎えるに当り，幹事一同心より，当学会会員の皆様へ

“あけましておめでとうございます．皆様の御活躍，御発展をお祈り申し上げます”

と申し上げます．

昨年は，一昨年の石油ショック以来，不況風が吹きあれ，小さい会社から思いがけない大会社まで倒産したとか，ストが延々と続き，登校，通勤に非常に苦労したとか，台風だとか，いろいろ大きな有難くないニュースがあつたが，その中で，両陛下の御訪米は一段と群を抜いて全世界の注目を集め，両陛下の素朴な上品なお人柄が，より一層の日米平和の友好関係を樹立したことは誠に喜ばしいことで，一種の爽やかさを感じられた諸氏も多かつたことと思う．

今年は辰の年であり，是非，昇り竜の如く，吐く息で不景気風を吹き落とし，世の中がすべて好転するように祈つてやまない．

毎年，お年賀の葉書を見る度に，筆の字が次第に少なくなり，ついでペン字が多くなり，今は活字が多くなつているが，年賀状は貰う側からいうと，活字以外のいわゆる肉筆の方が楽しいものである．

当学会関係について言うと，最近の原稿の字は大変読みやすく，綺麗な字が多くなつたと思う．もちろん，前々から原稿の字は楷書で綺麗に書くことにはなつているが，いわゆる達筆といわれる素晴しい字や，下手な字，しかもそれをくずした字，大急ぎで書きとばした字などは，いわゆる判じ読みをしなければならない．これはこの学会にかかわらず，どこの編集者に対しても大変時間の無駄使いをさせるものである．

もともと活字とは読みやすいけれど，実に味気ない殺風景な感じであり，皆が書道とまでゆかなくても，みずぐきうるわしき肉筆をたまに書くゆとりがあつたら，ビルの谷間に思いがけない綺麗な花をみる思いがするものをとつねづね思つたりしていたが，いつか，著名な作家や有名な学者の自筆の原稿がそのまま発表されたのをみて，達筆ならいざ知らず，この有名な人々の思いがけない悪筆のとばし書きの原稿をみた時は，活字印刷の有難さをつくづく感じ，その原稿を活字にした編集者，植字工に敬意を表したものである．

今後も綺麗な楷書の原稿が続くことを祈つている．

(F.T.)